

は、企画調整課長、これ確認していいのかな。  
あの上流については、平泉橋から上流は、長井  
ダムの周辺環境整備とあわせて県とも協議して  
やっていくという見解でよろしいでしょうか。

○佐々木謙二議長 松木幸嗣企画調整課長。

○松木幸嗣企画調整課長 お答えいたします。

私が申し上げた部分、平泉橋から上の部分、  
まなび館のところですかね。そちらの方の部分  
については、現在も実施計画で持ってます遊歩  
道について、ことしから、今までどちらかとい  
うと絵をかいてるという状態でしたので、もう  
少し実際に何ができるんだということを、期間  
でありますとか予算でありますとか含めてこと  
しは検討するという事になっております。また、  
高蹴といいますか、第一発電所等についても、  
当然、今実施計画の中ではありますので、  
それを具体的にこの後、ダム側の方の工事とい  
いますか、補償対象としてどうなっていくかと。  
これも事務所側にとってはテーマでありますの  
で、どういった時期にどういった工法でやられ  
るかということを詰めていきたいと思えます。

ただ、発電所については相手方が県の企業局  
でございますので、当方ではありませんので、  
そちらの方との意見交換なども含めていかないと、  
なかなか地元の要望の部分については到達  
しないという部分がありますので、今の段階か  
らならしの協議はさせていただいておりますの  
で、ぜひご理解いただきたいと思えます。

○佐々木謙二議長 9番、渋谷佐輔議員。

○9番 渋谷佐輔議員 過去に洪水のときの現場  
写真なんかないかっていうことございましたが、  
きのうちょっとあっちこっちめぐって見たら、  
2006年7月14日、こういう岸辺がえぐれる状態  
の写真、見つかりました。これ、企画調整課長  
の方に後でもまず差し上げながら、やっぱり要  
望が強いんだということをご理解願いたいなど  
思ってます。

いろいろご質問させていただきました。時間

もとらせていただきました。私の質問はこれで  
終わらせていただきますが、大変、市長から  
前向きにご答弁ございました。関係答弁者の皆  
様もご理解いただいたと私は思っております。  
市政に反映させていただきますようお願い申し  
上げながら、質問を終わらせていただきます。  
ありがとうございました。

## 谷口栄子議員の質問

○佐々木謙二議長 次に、順位7番、議席番号5  
番、谷口栄子議員。

(5番谷口栄子議員登壇)

○5番 谷口栄子議員 おはようございます。

6月定例会に当たり、通告しております2点  
について一般質問させていただきます。

初めに、この春行われました市議会議員選挙  
に、公明党の公認と多くの市民の皆様から真心  
のご支援をいただき、3期目の当選をさせてい  
ただきました。心から厚く御礼を申し上げます。  
本当にありがとうございました。

1,245票で第2位、前回より101票を上積みさ  
せていただきました。私は、これまで掲げてき  
ました優しい心で福祉のまちづくりを基本理念  
に、女性の視点、生活者の声を生かして、水と  
緑と花の長井のまちづくりに全力で取り組んで  
まいります。赤ちゃんからお年寄りまで、だれ  
もが安心して住める長井市を築くために努力し  
てまいります。

また、公明党は、地方議員と県会議員、国会  
議員が連携し、ネットワーク政党として市民の  
目線に立って政策を実現し、未来に責任を持つ  
政治に取り組んでまいります。子育て、福祉、  
健康、教育、環境、文化芸術のすべての分野の  
改革に努力してまいります。先輩議員の皆様を  
初め市当局の皆様のご指導、ご鞭撻のほどをよ

ろしくお願い申し上げます。

それでは質問に入らせていただきます。

1 点目、協働のまちづくりについてであります。答弁は、市長、商工観光課長にお願いいたします。

長井市の財政は楽観を許さない状況にあり、多額の財源不足への対策が緊急の課題となり、本年は財政危機脱出元年の出発となりました。内谷市長は、「これまでの行財政改革を再構築する年にしたい」と決意されて、自立経営対策室を庁内に設置されました。目黒前市長時代から取り組んできた行財政改革であります。市財政課による平成17年11月に取りまとめた「財政の中期展望」では、今後4年間の財政収支の見通しで、本年、平成19年度において入ってくるお金が105億5,900万円、必要なお金が105億5,900万円の同額に対して、平成20年度で入ってくるお金102億1,000万円、必要なお金106億7,500万円、不足分4億6,500万円と示されました。また平成21年には、入ってくるお金101億8,000万円、必要なお金106億700万円、不足分4億2,700万円になるとの見込みです。さらに平成22年度では、入ってくるお金99億6,500万円と少なくなり、必要なお金が102億円、不足分2億3,500万円になると発表されております。財源不足は、歳入の急速な減少、経常的経費の高どまり、多額の借金返済のためであると分析されました。

こうした多額の財源不足に対処していくために長井市自立計画の見直しが必要となったと発表され、見直しの項目は、1、法に基づかない非義務的な行政サービスの廃止、2、人件費を含む行政サービスのコスト低減、3、使用料、手数料の見直しと歳入構造の見直し、4、市民の皆さんへの行財政改革情報の提示と話し合いを示されたのです。

また、これにあわせ、市役所全体で今までのお仕事のやり方を抜本的に変えていくことも検

討されることになりました。これは現在市報において、シリーズ財政危機脱出元年で正しい情報が掲載されております。長井市の財政が健全なものとなるために、これまで以上に民間でできることは民間に任せ、事業仕分けを徹底し、市民参加の協働のまちづくりに全力で取り組むことが大事だと思います。

現在、商店街の活性化に特定非営利活動法人長井まちづくりNPOセンターが中心となって、市内の歴史、文化、自然など地域資源を生かした市民主体のまちづくりに真剣に活動されております。つつじまつりの期間中、5月19日の黒獅子まつりに続き、5月26日に、まちなか観光「あら町レトロ」というイベントが開催されました。蔵と庭のあるあら町の古い町並みを着物で歩こうというユニークな企画、やませ蔵通りに出店が出され、あら町の古いまちなみをゆっくり歩いて、それぞれのお店の庭も見てもらいながら5件以上のお店からスタンプを押してもらい、抽せん会で商品を当てようという企画もあり、子供たちも多く参加していました。

このような取り組みのきっかけは、長井の建造物調査を昨年10月、神奈川大学工学部の西和夫教授の研究室により、まちなかの建物調査であら町の古い建物の歴史的価値が見出されたからだだと思います。

また、このイベントに1人で何種類もの楽器を操るサウンドマシンの野尻博さんも参加、つつじ公園のツツジを見に来た観光客の皆さんが次々と足をとめて音楽を聞いてくださり、人の輪ができ、楽しいイベントとなりました。私もサークルつむぎの会員としてボランティアで参加、県外のお客さんとあら町を一緒に歩き、やまいちお茶屋さんでスタンプを押していただき、小川の流れる庭でお茶をいただき、次に、あけがらしで有名な山一醤油屋さんでスタンプをいただき、ここでもお茶をいただき、「先ごろ久保ザクラでの撮影に訪れた歌手の氷川きよ

しさんと欽ちゃんが立ち寄ったよ」との話も聞かせてもらいました。その後、鈴木時計屋さん、横沢電器屋さん、越後屋呉服屋さんと回りながら、横澤健平さんのお宅では、庭のシロツツジが八重咲きという珍しい品種、庭石は野川から運ばれたとのことで、山の石にはコケが生えるけれど川の石にはコケは生えないとの話もお聞きしました。いちまた呉服店さんの蔵は反物のお店として利用されており、私も蔵に初めて入らせていただきました。次に、旧羽前銀行の横沢さんにも回り、その後、着物カフェの看板のある壺ノ蔵に行き、一休みをしました。壺ノ蔵は、長井まちづくりNPOセンターの皆さんやアクショングループの皆さんが、まるや惣菜さんの蔵を借りて昨年リニューアルし、今年の6月、全国フットパスシンポジウムに合わせて内部を片づけ、調理場、トイレを整備し、まちの魅力づくりにつなげようと努力してきた蔵でした。木製のテーブルといすを設置し、壺ノ蔵着物カフェとして開放してくださったのです。多くの方がここでコーヒーやジュースを注文して一休み、中に入ると、山形工科短期大学の小幡先生も着物姿で休まれていました。多くの皆さんの努力輝き始めていると実感しました。

まちなか商店街の活性化を図ろうと、やまがた花回廊キャンペーンにあわせてあら町レトロを開催し、4月はピンクの久保ザクラののぼり旗をあら町を初め長井市内の商店街で立ててください、5月上旬から、シロツツジの開花に合わせてウグイス色のツツジののぼり旗を立ててくださいっております。また6月に入ってから、紫のアヤメののぼり旗が目に入り、まちの中は多くの市民参加の協働のまちづくりで、商店街の皆さんの真剣な取り組みが見えてきました。

長井まちづくりNPOセンターの皆さんの活躍で動き出した協働のまちづくりについて、市長にどのように思われるかお伺いいたします。商工観光課長には、このイベントの取り組みに

ついてお伺いいたします。

2つ目の質問は、やまがた花回廊事業の本市の取り組みについてであります。

花回廊のキャンペーンは、これまで置賜さくら回廊だったと思いますが、ことしは4月1日から6月30日までのやまがた花回廊で、花と食と歴史の県南、置賜上山観光ガイドの冊子となっています。このような14ページにわたる冊子です。情報がぎっしりと詰められています。多彩な列車でやまがた花回廊をめぐる、フラワー長井線を利用してローカル線で千年桜花めぐり、置賜はいつでも花日和という見出しで、置賜地方の久保ザクラに代表される置賜さくら回廊の桜の名木、古木を初め、桜の名所の多い地名が紹介されております。

また、全国有数の規模を誇る花公園も多く、特に春から初夏にかけては長井市のシロツツジ、飯豊町のユリ、南陽市のバラなど楽しむことができます。長井市のあやめ公園は、ここにしかない長井古種と呼ばれる原種に近いアヤメを見ることができると紹介されております。やまがた花回廊1日フリー切符も発売され広域観光で連携をとっており、このような紹介が全国に発信されていることを考えると、長井に来てくださる観光客を大事にし、真心のおもてなしで迎えないといけないと感じております。

6月24日はフラワー都市交流が長井市で開催されます。特に観光面は、商工観光課、観光協会が中心に、市民と協働し、進めることが大事となります。商工観光課長に、期間中の取り組み状況と今後のやまがた花回廊の取り組みについてお伺いいたします。

次に、2点目、豊かな緑を未来に引き継ぐやまがた緑環境税の活用について質問させていただきます。答弁は、市長、農林課長、教育長にお願いいたします。

やまがた緑環境税は、山形の豊かな緑をかけがえのない財産として未来へ引き継ぐためやま

+

がた緑環境税が導入され、みんなで支える森づくりに取り組むことになりました。山形県の荒廃が進んでいる森林の整備として、県全体の民有林のうち荒廃している里山林は19万ヘクタール、そのうち10年以上長期間放置されている里山林の面積は、推計で9万3,000ヘクタールとことです。森林は、私たちの生活に欠かせない水や空気をきれいに保つ上で重要な役割を果たしております。手を加えず荒廃する森林がふえてくると、私たちの生活に悪影響を与えてしまいます。緑を守る意識を持って森づくりに取り組み、自然環境を支えていくことが大事です。環境税は、山形の豊かな緑をかけがえのない財産として未来に引き継ぐために導入されたからです。

個人では年1,000円、法人は法人県民税平均割額の10%相当額、例えば1,000万円以下が2,000円、1,000万円以上1億円以下で5,000円となるということです。5年をめどに制度の点検、見直しが実施され、税の管理は全額基金に入れてほかの税金と区別されます。年間約6億円が基金となる予定です。

私たちの暮らしを支える森林の働きは、雨水を蓄え洪水や渇水を緩和し、おいしい水をもたらします。木の根や地表の落ち葉などが土砂の流出や山崩れを防ぎます。いろいろな動植物の生息の場であり、いやしの効果を持っています。大気中の二酸化炭素を吸収し貯蔵します。また、地球温暖化防止、森林文化の形成、海、川資源の保全、保健レクリエーション、林産物の生産などが上げられており、森林の大切さが実感できます。

私たちの住む長井市内でも、今泉八ヶ森付近、伊佐沢、金井神、森方面の山々が松くい虫に侵されて赤く枯れているのが年々目立っています。雪解け後の春の山に山菜とりに行きますと、木が倒れたままになって荒れているところを目にします。やはり今日、個人で山を大切に管理す

ることが少なくなり、山は荒れていくばかりのようです。緑を守る環境税の取り組みに大きな期待が寄せられていると思います。長井らしい森林整備の方法など、内谷市長の見解をお聞かせ願います。

県全体で税収は5億4,400万円、その7割の3億9,000万円を松くい虫など荒廃が進んでいる森林整備に充てられ、県民参加の森づくりに1億900万円、PR活動や効果検証などに約4,500万円と聞いております。長井市の森林面積、ことしはどんな取り組みになるのか、本市の取り組みについて農林課長にお伺いしたいと思います。

2つ目、森林を活用した学校教育についてであります。

森林での子供たちへの自然環境学習の推進として、6月補正予算にみどり環境交付金事業が計上されています。西根小学校で小学生のシイタケ栽培体験教室に5万7,000円、古代の丘遊歩道整備に88万6,000円、古代の丘の木製机、ベンチ、案内板の設置に21万6,000円、合計115万9,000円、早速活用させていただけることはうれしいことです。

古代の丘は、中里堤を中心に、土偶広場、芸術の広場、土器の広場、石の広場、星の広場、太陽の広場など多くの広場があり、体験交流センター、バンガローもありキャンプもできます。自然の中での環境教育の大切な場所です。夏休みになりますと、多くの子供会がキャンプ等で利用します。四ツ谷地区の親と子の会も毎年利用させていただいております。古代の丘周辺の整備は学校の環境教育の場として大切です。緑環境税が、子供たちの地域による森づくりや自然環境学習への推進や指導者の育成支援にも活用されていくことになり、大変うれしく思います。

環境のまちづくりを目指す長井市の学校教育にもっと森林を活用した環境教育を推進すべき

と思いますが、いかがでしょうか。教育長に伺います。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 谷口議員のご質問にお答え申し上げます。

議員からは、大変長井を元気にするためというありがたい視点から、協働のまちづくり、そしてやまがた緑環境税の有効な使い方についてさまざまな視点からご提言、ご指摘いただきまして、大変ありがとうございました。

それではまず最初に、まちなか観光とあら町レトロのことについてお答え申し上げたいと思います。

大変、谷口議員からもいろいろご指導、ご協力いただきましたですけども、今回のあら町レトロを見て、フェスタですね、観光の観の観る方と実際に目で見ると、それから舌で味わっていただくというフェスタだったわけですが、これは雇用創造促進事業、商工観光課で今担っていただいておりますけども、その観光物産基礎講座をお願いしております野尻博先生に全体のプロデュースをお願いして、ちょっと急な企画だったんですけども、ぜひまちなかに観光客の方をどのようにして歩いていただいて、そして長井のいいところをいっぱい見ていただいているような体験をしていただくと、そのような目的から実施したわけですが、来客の方からも大変好評でしたし、商店街の方からも「ぜひ来年もやりたい」というような声が上がってきているというふうに聞いております。来場者の予想も当初1,000人程度だというふうに思っていたところだったんですが、当日約2,000名の方がいらっしゃってくださったというふうに聞いております。

きっかけづくりとしてはまずまずのスタートでして、これが単発として終わるのではなく、

ぜひ今後はどうつなげていくかという視点をきちんと検証して、そして全体に次回に広げてまいりたいと、つなげてまいりたいというふうに思っております。

特に観光と連携したまちなかのぎわいづくりというのは、観光協会でも、あるいは商工会議所の方でもいろんなご指摘をいただいているわけですが、残念ながらさくら回廊のときは、昨年よりは若干人が減りましたが、やはりそれでも13万以上の方が長井を訪れていらっしゃる。しかし、伊佐沢の久保ザクラの前で、いろいろ長井のこういういいところがたくさんあるですよというふうにPRしてるんですけども、残念ながら、まだまだ目に見えるような経済効果が上がっていないんじゃないかなというふうに感じてるところでございまして、これからいかにして長井にいらっしゃる、今もあやめ公園がきのう開園したわけですが、あやめ公園という点じゃなくて、長井、まち全体の面にそのお客様をいかに誘導していくかという部分を検討していかなくちゃいけないと思いますけども、やはりそこで重要なのが、議員ご指摘のとおり、観光も協働で進めていくんだという考え方だと思います。やはり商店街とか、あるいは観光に直接、間接的にかかわってる商売の方、あるいはいろんなボランティア団体、市民の方がどのような連携をとってこれを進めていくかだと思いますし、やはりそこに行政がどのようなお手伝いをしたらいいのかという部分をもっともっと研究していかなくちゃいけない部分がたくさんあると思います。

ついこの間も観光プレゼンテーションということで、谷口議員もいらしたと思いますけども、桜とアヤメと、それからあら町の方ですね、その3つに分けていろいろご提案いただきましたんですが、すばらしい発想、あといろんなアイデアがたくさんある。しかし、それをどのようにして実践していくか。そのために、

どのような仕掛け、プロモーションが必要なのかと、その部分がやはり長井は残念ながら弱いのかなと改めて思いましたが、特に大町の方の四釜さんあたりは、ぜひことしから、今回からやってみたいというふうにおっしゃってましたので、ぜひ市民の皆様からも、あるいは行政の方でも全面的にお手伝いしながら、試行錯誤はやっぱり繰り返さなきゃいけないと思いますけれども、頑張ってもらいたいと思っております。

次に、2番目の、やまがた花回廊事業と本市の取り組みについてお答え申し上げます。

議員ご承知のとおり、やまがた花回廊というのは、置賜と、それから、かみのやま温泉、葉山温泉含めた山形県南部の花をつないだキャンペーンでございます。これはことし初めてのキャンペーンなわけでございますけれども、これを単年度で終わらせないような取り組みをぜひ県の方に、あるいは置賜3市5町で足並みをそろえていかなきゃいけないなと思っておりますけれども、さくら回廊は非常にもうメジャーになりつつあるのかなと思っております。しかし、観光客をいかに、桜のところだけじゃなくて、本来まちとして望む、先ほどからも申し上げてますように経済効果を持っていただくような、そんな取り組みをすることはやっぱりなかなか難しいなど。この花回廊事業でも同様かなというふうに思っております。

ぜひこれを単年度に終わらせないためにも、再来年、2009年に、直江兼続公ですね、米沢に非常にゆかりの深い大河ドラマがNHKで放映されることが決定いたしましたので、ぜひことしから来年、再来年とこれをつなげていきたいと思えますし、長井でもどのような取り組みができるかいろいろ検討しなきゃいけません、この間も話ありましたように、例えば総宮神社に直江兼続公が手植えた杉があるというようなことでして、こういったところなんかももっともって何かそれにちなんだものを探せばいっ

ばいあるんじゃないかなと思います。

そういったことで、米沢だけじゃなくて、置賜3市5町でこれを、客にどんどん来ていただくように、一緒に取り組みしなきゃいけないと思っております。

今後のJRの予定、今回も花回廊はJRから協力いただいているわけですが、来年の10月から12月までは、仙台、宮城県内でディステーションキャンペーンというのが行われます。また、置賜総合市庁では宮城県、福島県との広域連携を検討中ということでございまして、ただいま申し上げました21年度のNHKの大河ドラマ、直江兼続公が主人公になるということでございますけれども、こうした大きな動きの中で長井市へのかかわりを持てる場面があるかどうか、今後の動きに注目していきたいなと思っております。ぜひ谷口議員からもいろいろご提案、ご指導いただければ大変ありがたいと思えます。

最後の質問の緑環境税の活用についてでございますが、緑環境税については、対象となる事業が大きく3つあると。

1つは森林での保全体験活動について、2つ目には、河川などの水環境の保全活動、そして3つ目には、希少野生生物等の保全活動ということでございまして、ことし長井では、古代の丘を中心とした遊歩道の整備、木製机、いすなどを直す。従来のものを少し傷んでるところを直すという事業に活用させていただいておりますが、緑環境交付金事業と、こういう事業になるわけでございますけれども、これが対象となる森林というのが、長井の場合ですと1,802ヘクタール、全体の31%、そういうふうに言われておりまして、1ヘクタール当たり30円ぐらいの交付金というふうに考えなきゃならないというふうに思います。

市として、今後どのような長井らしい整備の仕方をしていくのかということでございまして、やはり、議員が2番目に質問された学校教育の

部分に私はぜひ力を入れて、これを使っていたくような有効な使い道を考えたいと思っております。特に、長井には全国に誇ります不伐の森が伊佐沢にありますし、それから長井ダムの環境整備の中で、平成20年度ですね、21世紀不伐の森をまた新たにつくるというふうな考え方もありまして、森林での保全体験活動にぜひ子供たちが参加できるように、そして長井のよさを知っていただく機会になるような、そんな取り組みを主に考えておりますし、また、やっぱり貴重な生物、これ野鳥でも同じだと思んですが、そういったものをぜひ子供たちに理解できるような、そんな機会を設けたいと思っております。

いずれにしましても、ぜひ使い方については市民の皆様からいろんな意見をいただいて有効に使ってまいりたいと思っておりますので、何とぞ今後ともよろしくご指導賜りますようお願いいたします。

以上でございます。

○佐々木謙二議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 谷口議員の、森林を活用した学校教育についてということでお答えをしたいというふうに思います。

現在、市内の小中学校で取り組んでいる自然体験学習としては、さっき谷口議員の方からもありましたけども、古代の丘周辺を活用した歴史学習、地域学習、バンガローでのキャンプなどに4つの小学校が利用しています。また、飯豊少年自然の家を利用した体験学習というのは、市内小中学校すべてがやっています。それに植林をしている学校ですが、致芳小学校の方では4年生の親子行事として毎年行っているということですし、西根小では地区の教育振興会が中心になって、6年生が森林組合、県の森林整備課、林業士、PTAなどの協力を得ながら、ここ4年間は毎年行っているようです。私も昨年ご案内をいただいて参加をしたところでしたが、

そこでは県の森林整備課の職員が紙芝居を使った森林学習も行っていました。「将来的にはあずまやをつくり公園として整備をして、将来的に同級会ができるような場所にしたい」というような願いも持っているようです。伊佐沢の方でも、さっき市長の方からもありましたけれども、不伐の森を使った学習とか、公民館の事業として不伐の森の近くにドングリの実などを植える活動をしているということです。

環境教育としては、レインボープランの学習、また、平成15年度から始まっている「最上川200キロを歩く」に、今年度は平野小、過去には長井小、致芳小、西根小、豊田小も参加しているところです。これもさっき市長からありました、各小学校では省エネ共和国として節水、節電に取り組んでいますし、中学校でもその延長として、生徒会を中心に節水、節電に取り組んでいる現状です。

先ほど渋谷議員からもあったように、21世紀というのは環境問題の時代というふうに言われています。谷口議員ご指摘のように、森林は地球環境にとってはとても大事な働きをしておりますので、森林教育は大事にしなければならないというふうに考えているところですが、ただ、特別時間をとって森林教育は今の学校ではちょっと時間設定上難しい面がありますので、現在各学校でやっている学校行事、学年行事、PTA行事と関連させながら、親子ともども環境問題に対する意識を高めるような工夫が必要かなというふうに思っているところです。

やまがた緑環境税についてですが、これも置賜総合支庁農林整備課の方から、このみんなで支える森づくりのパンフレット、4月末に各学校に配布されたんですけども、やはり周知徹底されていないという状況です。今学校で取り組んでいる活動ですね、例えば植林もそうですし、平野小とか長井南中の科学部なんかでは、川の生き物調査なんかもやっていますので、これも

+

ちょっと工夫すればこの事業に該当するのかなというふうに思いますので、農林課と連携して取り組むように学校の方にも働きかけをしていきたいというふうに思っています。

以上です。

○佐々木謙二議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 谷口議員のご質問にお答えさせていただきます。

まず1点目は、あら町レトロのイベントの取り組みについて、イベントの内容についてというふうなことでございますが、あら町レトロにつきましては、観光協会、それから商工会議所、市の方でいろいろ議論をしまして、とにかく観光と商店街といいますか、まちなかの活性化を図っていかないといけないというふうな共通の認識のもとに、あら町を考えていこうというふうな形になったものでございます。

全体といたしましては、市長、それから谷口議員がご説明をいただいたように、野尻博様の方に全体的なアドバイスをいただきながらやったものでございまして、内容といたしましては、大道芸、それからオープンガーデン、着物カフェ、スタンプラリー、フリーマーケット等々をやったものでございます。つつじ公園からまちの中の回遊性を考えていきたいというふうなことでございます。

それから実行委員会の体制といたしましては、あら町の商店街の組合の組合長さんに実行委員長になっていただきまして、地元のあら町、神明町の地区の皆さん方、それから先ほど申し上げました観光協会、商工会議所、そのほかにフットパス推進会議、それからアクショングループ、山形工科短大の皆さん方に、実行委員としていろいろ検討していただいたというふうなものでございます。

全体としての受けとめ方といたしましては、商店街の方からの又聞きになるわけなんです、昭和40年代のまちのにぎわいを思い出したとい

うふうなお話を伺っております。いろんな形で協力をいただきながら、こんなふうな形で展開できるんじゃないかというふうなことを受けとめていただいたというふうなことを、とりあえず喜んでいきたいと。これからの展開の中でもう一度しっかりと反省をしながら、検討をしながら、次の展開を考えていく必要があるだろうというふうに思っております。

それから、2点目のやまがた花回廊事業と本市の取り組みについてでございますが、4月から6月までのディスティネーションキャンペーンに対する対応でございますが、こちらの方の長井の方の関係といたしましては、特別列車というんでしょうか、花回廊号、あるいはこれからですとトロッコ列車などが参るわけなんです、その今泉駅及び長井駅でのおもてなしを各地区、各駅、それから長井駅前の方ですと栄町の商店街の皆さん方に大変なお世話になりました、そのおもてなしの事業に取り組んでいただいております。

それから、あと桜の時期ですと、白兔駅から桜の花ウォークということは今までの事業に追加してやってきたというふうな状況でございます。

全体的な入り込み数等々ですが、まだ置賜全体としては4月時点のものしか総務省の方からは発表されてございませんが、大体15%ぐらい全体としてはふえているのではないかというふうな報告をいただいております。ただ、桜につきましては、連休の遅くといいますか、後半の部分まで伸びなかったといいますか、散ってしまったというふうな状況がございまして、総体としては2万人ぐらい減ってるような状況であります。ただ、大型バス自体はふえてまして、このキャンペーンの効果をうかがい知ることができるかなというふうに思っております。ただ、土日の天候の関係で、個人客っていいですか、自家用車の台数が後半も含めて若干伸び悩んだ



というふうな状況にあるかなというふうに思っております。

大変ありがたかったのは、タクシー会社さん、3社共同で観光タクシーの商品を開発、あるいはつくられましてPRなさっておりました。運転士さんの方に聞きますと、昨年よりいい状況のようだというふうなことでございまして、観光においでになられた方に対してのサービスを提供するというふうなことで、タクシー会社さんに商品を考えていただき、それを生かしながらみずからの事業に展開していただくというふうな方向をいろんな形でやっていただいているのは、大変にありがたいことだなというふうに思っております。

これから、とりあえずこのキャンペーン自体は6月でございまして、6月の後半部分につきまして、先ほど申し上げましたトロッコ列車等々、あるいはびゅうバスなども文教の杜の方に入らせていただいているというふうなことで、これから最後の追い込みをぜひ頑張りたいなというふうに思っているところでございます。

ちなみに山形鉄道さんにつきましては、18年度、1,400人のエージェント客を運んだということなんでございまして、今年度は4,400人ぐらいのエージェントのお客様がいましたというふうな報告をいただいております。

それから文教の杜の方も、年間を通してぐらいのお客様がおいでになったよというふうな報告を受けてございまして、広域的なキャンペーンの成果がこういったふうなところにあらわれているかなというふうに考えてるところでございます。

以上でございます。

○佐々木謙二議長 遠藤正明農林課長。

○遠藤正明農林課長 お答えいたします。

私のところの質問の趣旨は、緑環境税事業の対象となる森林面積に関してというふうなことだったと思いますが、先ほど谷口議員の方から

県全体の整備対象面積について触れられておりました、天然林面積19万1,000ヘクタールのうち、活力の低下している里山林9万3,000ヘクタールを荒廃森林整備対象として整備をしていくというふうなことであったと思います。これにつきましては、奥山林、つまり標高500メートル以上の森林が一つ除かれると。それから管理されている里山林、私有の保安林とか、市、県、林業公社が管理しているような山林でございまして、そういった森林が除かれましてこういった面積になるものだと思います。

それで、そのほかに対象となる森林につきましては人工林がございまして、管理放棄されている人工林、これにつきましても対象とするということで、人工林12万1,000ヘクタールのうち管理放棄されている3万9,000ヘクタール、これを整備対象とするということでございまして、合わせますと、民有林面積31万2,000ヘクタールのうち合計13万2,000ヘクタール、約42%程度でございまして、これを対象とするというふうなことでございます。

それで、長井市の場合でございまして、先ほど市長からもありましたように、長井市の民有林面積5,731ヘクタールに対しまして、整備対象が1,802ヘクタール、これは31%程度でございまして、これにつきましては、長井市の場合、民有保安林面積が3,031ヘクタールと50%以上を占めていることなどによりまして、整備対象面積が限られてくるというふうなことになっているところでございます。

続きまして、市町村交付金事業でございまして、これにつきましては緑環境交付金というふうなことで、総枠と、それから森林面積割、それから児童生徒割、緑の少年団員数割というふうなことでありまして、このうち森林面積割の面積につきましては国有林と民有林を合わせた数字になってございます。長井市でいいますと1万4,920ヘクタールというふうなことで、森

+

林面積割は、これも先ほど市長からありましたように1ヘクタール当たり30円というふうなことでありますので、市町村交付金全体の40%を占めるというふうなことになっているところでございます。

ソフト事業に関しまして面積がこのようにふえるというふうなことにつきましては、森林環境学習のフィールドといたしまして国有林もやはり活用していくということにつきましては、それを除外するものではないというふうなことからでございます。

以上でございます。

○佐々木謙二議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 詳しい答弁、ありがとうございます。

先ほどの市長の答弁の中で、きのうが長井のあやめ公園の開園日でありました。関係者の皆さんのご苦勞で本当にきれいなアヤメが咲く準備されているわけですが、やはり職員の方の準備で「まだ手が届かなかった」って、きのう本当におっしゃっておられたんですが、やはりあの広大な公園の中を本当に関係者だけでやるっていうのは大変なことなんだなって。もう私も観光協会の理事をさせていただきながら、ずっとあやめ公園には関心を持ってきたところなんです。本当にあら町レトロのあの事業で実行委員の中に多くの方々がかわって、あの成功、1,000名のところを2,000名も参加できたというふう先ほど報告ありましたが、あやめ公園も、もっとあやめ公園に関心を持ってもらったり、また、あやめ公園でボランティアで清掃してあげるよ、また草もむしってあげるよ、そういうボランティアのできる皆さんに声をかけて、期間中に少し皆さんとの連携をとって計画を立て、協働のまちづくりの中でそういう部分、お手伝いをいただけるような取り組みができないものかっていうふうに感じるんですが、今回NPOまちづくりセンターの皆様たち、本

当にご尽力されてるわけです。皆さんのお力をおかりして、何か連携をとれるような窓口になれないか考えていただきたいなというふうに思うんですけども、その点どうでしょうか。市長にお伺いいたします。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 答えいたします。

議員おっしゃいますように、確かに、例えば間に合わなかった部分として、池にいろんなごみが、ごみはさすがになかったんですが、いろんな藻みみたいなものが浮いてまして、落ち葉とですね、そういったものも清掃しなきゃいけないかなというふうに思いますが、なかなか手が回らなかったということでございます。

ご指摘の件でございますが、なかなかボランティアをお願いするっていうのは、ちょっと今までその部分はやはり市の方でやらなきゃいけないのかなというふうに考えておりましたが、議員の方からそういうふうにご指摘もいただきましたので、去年は株分けの部分、ボランティアとして団体とかお願いするような試みをしましたので、これから、いわゆる清掃ボランティア的なものも募集してみるようなことができるかどうか、ぜひ検討してまいりたいと思いますし、やはりそのまちづくりNPOセンターあたりからも、いろんなやり方等についてご指導いただきたいと思っております。

○佐々木謙二議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 森林だけでなく、これからは水保全というか、水に対しても関心を持っていただく税になるってことで、山形新聞主催でここ数年、8大事業という事業で最上川200キロを歩く、本当に私もこれを感じながら見てるんですけども、子供たちにあのような取り組みで関心を持っていただき、その地域の子供たちにそういう機会を与えていただけるというのは大変うれしいことだと思います。

その中でフットパスなんかも歩かれてるよう

ですけれども、そのフットパスなんかの中で管理、フットパスの方もまちなか観光の一つになってくると思うんですが、管理の方はどうなっているのか。

○佐々木謙二議長 どなたにですか。

○5番 谷口栄子議員 市長に。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

管理の詳しいことについては建設課長の方から答弁させますけれども、基本的に、フットパスという名称は、いわゆる小道っていう名前なわけですね。これからフットパスをやはり市民のものにするには、フットパスを歩こうと、ウォーキングだということでのPRをもっともっとしていかなくちゃいけないだろうと。基本的には、やはりそれを使って散歩なんかで歩いていただく方に管理していただければありがたいわけですが、かなり広大な面積になりますので延長がかなり長くなりますので、その辺のように、地元のボランティア団体あるいは地区、あるいはこういった形で委託できるかとか、そういったところは検討しながら、もっともっとご活用いただくようにPRしたいと思います。

じゃ、詳しいことは建設課長が答えます。

○佐々木謙二議長 鈴木一則建設課長。

○鈴木一則建設課長 お答えいたします。

フットパスの環境整備につきましては、今現在、水辺環境整備促進協議会という館町南地区から十日町・舟場地区の方まで地区全体に加盟していただきまして取り組みをいただいております。せんだっての5月の末に河川のごみ拾い、それから秋に、もう一度河川ごみ拾いという形で取り組んでいただいているところでございます。

○佐々木謙二議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 あら町レトロの今回の開催の中で、やませ蔵に出るところ、壱ノ蔵通ってちょっとしたところから川辺をやませ蔵に

出るところの道路があるんです。これもフットパスの中でルートになっているんですけども、そこを通ってみますと、まだまだ整備がされていないというか、これからまちなか観光をということで、このあら町レトロの開催が、毎年していくっていうか、そういうふうになるとすれば、まだまだまちの中の整備も関連して必要になってくると思いますが、そういう部分のまちづくりっていうか、事業は、今回新しくまちづくり基金っていうもので対応されるものになっていくのか、お聞かせいただきたいと思います。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

まちづくり基金につきましては、ハード事業については、地場産業振興センターの中にそのまちづくりの運用の委員会がございますので、そちらの方で具体的には検討いただきますが、要綱によりますと、特に歴史的な建造物の修復等、あるいは市内のまちづくりの景観に資するような事業、ですから、議員ご指摘のフットパスの周辺に例えば生け垣をつくったりとか花壇をつくったりとかいうことは該当するかもしれませんが、ただし、行政の事業については該当になりません。あくまでも民間事業でございますので、そういった意味では、フットパスについては市の方のむしろまちづくり交付金事業で、これからまだ3年ございますので、その中で必要なところ、地元、あるいはいろんな団体等と相談しながらやっていきたいと思っております。

○佐々木謙二議長 谷口議員に申し上げます。議員の持ち時間が近づいておりますので、簡潔に、1点だけ許可します。

○5番 谷口栄子議員 古代の丘の今回遊歩道が整備されるわけですが、広大な地、場所になっていて、本当に危険な場所なんかもあるんでないかと思えます。私もきのう行ってきてみて、道路が引込んでたりして、自転車で子供たちが、でこぼこになっていて危険など

ころがありました。ぜひ担当者の方に見ていただいて直していただいて、子供たちが使うときまでに直していただければと思いますので、以上で終わります。ありがとうございます。

○佐々木謙二議長 ここで、昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前11時57分 休憩

午後1時00分 再開

○佐々木謙二議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

なお、大沼久議員から、午後の会議に遅刻する旨の申し入れがありますので、ご報告いたします。

また、平進介総務課長が午後の会議を欠席のため、渋谷憲治総務課補佐が出席しておりますので、ご報告いたします。

それでは、市政一般に関する質問を続行いたします。

## 我妻 昇議員の質問

○佐々木謙二議長 順位8番、議席番号3番、我妻 昇議員。

(3番我妻 昇議員登壇)

○3番 我妻 昇議員 4月の市議会議員選挙におきまして2期目の当選を果たすことができましたこと、この場をおかりいたしまして、厚く感謝と御礼を申し上げる次第でございます。

この選挙戦、あるいは1期4年の間、見聞きましたさまざまなご意見や、それぞれが抱えている問題点をしっかりと市政に伝え、反映できるよう努力してまいりたいと思います。

また、はんらんする情報を収集、分析することで、市政のチェック役として確かな目を養い、その与えていただいた役割を果たしていきたいと決意を新たにしました次第であります。

長井市が明るく夢の持てる住みよいまちになることを願いながら、それでは一般質問をさせていただきます。

初めの質問は、財政危機脱出元年についてであります。市長、自立経営対策室長、企画調整課長に答弁をお願いいたします。

3月に示されました19年度施政方針の基本的な考え方に、「今年度を財政危機脱出元年と位置づける」とありました。財政難というよりも、財政の緊急事態を回避したいという力強い決意が述べられたと思います。その具体的な方針は、自立計画を再構築すること、議会や職員初め全市民に財政の現状を正しく認識してもらうこと、そして協働のまちづくりを強力に推し進めることと私なりに認識しております。

そこで、自立計画の再構築について質問いたします。

先日の一般質問での市長答弁では、「18年度に策定された自立計画には数値目標が欠けていた」ということでありました。つまり、自立計画5カ年で予想される23億円もの財源不足に対して具体的な対応策が示されていなかったため、新設の自立経営対策室を中心に計画の再構築を図っていくということでもあります。新年度がスタートし2カ月、再構築の進捗状況と、今後どのように検討を重ねていくのかをお聞かせ願いたいと思います。そのためのプロジェクトチームを立ち上げたともお聞きしましたが、それはどのようなものかもあわせてお願いいたします。

次に、財政危機を脱出するためには、いかにして経費削減を図るかが最大の仕事だと言っていると思いますが、その経費削減の中でも人件費削減が大きな位置を占めるのではないかと思います。人件費といっても幅が広いので、ここ